

優秀賞

まわりをみよう

福井県 大虫小学校 五年
西野 桜生

夏休みに入ってから、平日はおばあちゃんのお家^{うち}で生活することが多くなって、ある日、近くのスーパーへおばあちゃんとお買い物に行きました。お買い物が終わったあと、目の前に立っていた知らないおじいさんが、おさいふを落としてしまいました。

実はわたしも昨年、ゲームセンターでおさいふを落とした経験がありました。おさいふからお金がいっぱいに散らばってしまって、拾っているときに、まわりの方がお金を拾うのを手伝ってくれました。そのとき、助けられた感じがして、とてもうれしかったので、わたしはおさいふを落としてしまったおじいさんの百円玉をいっしょに探しました。すると、無事に見つかり、おじいさんにわたすことができました。おじいさんが、

「ありがとう。」と言ってくれて、とてもうれしかったです。

わたしはいつも、お母さんに、

「もっと、まわりを見なさい。」とよく言われます。低学年のころは、何をすればいいか具体的にわからなかったけれど、高学年になった今は、困っている人がいると、(わたしに何かできることがあるかなあ)と思うようになりました。

まずは、家族が困っているときに、声をかけるように心がけています。例えば、わたしには3才の妹がいます。妹のお世話でお母さんが困っているときに、お母さんに言われる前に行動するようにしています。

次にわたしがよくやっていることは、スーパーのカートやカゴをきれいにならべることです。これは、妹が生まれてからやり始めました。妹が生まれて少したったころ、3人でスーパーに行ったとき、お母さんがカゴを取りにくそうにしていました。

「ちゃんとかたづけてくれない人がいるのは、困るね。」

と言っていたので、カートやカゴがちゃんと整とんされていないのを見ると、整とんをするようにしています。カートやカゴがちゃんとかたづけてあると、次に使う人が困らないですむし、わたしもなんだかいい気分になるからです。

「親切にしよう」と思うのはかんたんだけれど、「困っている人が今何をしてほしいのか」を感じる事が一番大事なのかなと考えるようになりました。

今までをふり返ると、あまり親切をしていないかなと思ったので、これからもわたしより小さい人、障がいのある人、おじいさん、おばあさんなど、いろんな人を助けてあげたり、探し物をいっしょに見つけてあげたりしたいと思います。